

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海		
所在地	長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成29年8月20日	評価結果確定日	平成29年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a0Open?OpenAgent&amp;JNO=4271101885&amp;SYC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01">http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a0Open?OpenAgent&amp;JNO=4271101885&amp;SYC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は日々、入居者様に向き合うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思えます。また、「ひやりはっ」と「身体拘束・虐待防止」「感染症・衛生管理」委員会活動を行ったり、月に一度職員勉強会を開催し、サービスの質向上に努めています。施設周辺には山、川、海と自然豊かで1年を通して四季時折の風景を楽しむ事ができます。中庭は家庭菜園と花壇があり季節に応じて入居者様と花や野菜を植えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき、各ユニット目標を決めることで、常に理念を意識し、理念に沿った支援に繋いでいる。また、理念に関する研修を定期的に続けることで、職員への理念の浸透を図っている。中学校の依頼で年賀はがきのやり取りを行う、施設前の道が通学路のため「子ども110番の家」になり、子どもが気軽に施設に立ち寄る等、地域活動や人々との関わりを積極的に行っている。また、母体が医療機関であり、退院後のフォローを入院時の看護師が引き続き施設で行うなど、医療機関との連携が密であり入居者の安心に繋がっている。日常生活の一つひとつの場面で入居者の意思を尊重した支援を行う等、入居者の人格を尊重し、地域との繋がりを大切にしながら、日々の支援に取り組む施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に法人理念の「楽しく・優しく・元気よく」を意識しながら毎日のケアを行うように心がけています。	法人理念を基に施設独自の理念を全職員で考え、名札の裏に携帯して常に理念を意識するように工夫している。各ユニットのケア会議で問題事例を基に、理念に沿った支援ができていないか話し合うことで理念の浸透を図り、理念に沿った支援に繋いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生を招待しての芋掘りを行ったり、地域の夏祭りや認知症カフェへの参加を行っている。	地域の夏祭りに参加する、散歩コースを清掃する、自治会長と日常的に話し合う、中学校の依頼で年賀状のやり取りを行う、施設前が小学校の通学路になっており「子ども110番の家」になり、地域の子供も達が気楽に立ち寄り等、日常的な地域との相互関係作りを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の方(認知症サポーターリーダー)に参加して頂いています。また、清掃活動なども行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、家族や地域の住民の方にイベントや取り組みなどを報告し、ご意見・要望を頂いています。	家族や自治会長、民生委員、地元駐在所の巡査長、行政等が参加し、活発な意見交換がなされている。参加者の意見を受け、「身体拘束委員会」を中心にチェックシートを検討し、ユニット会議で月1回集計して、事故が起りやすい場所や時間を検討し、事故防止改善策を話し合う等、意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方や行政センターの方に運営推進会議に参加して頂いています。	地域包括支援センター主催の「よかとこカフェ」に入居者と参加し、地域住民との交流や体操、おやつを楽しむ、地域がら大雨や凍結等で断水になることが多く、市の水道局に給水車をお願いする等、行政との連携により入居者の安全と安心した暮らしを築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、職員ひとり一人が身体拘束を行わないようにしています。言葉による拘束など専門的な考え方を浸透させるよう努めています。	「身体拘束委員会」を中心に、毎月身体拘束に関する勉強会を行っている。「ロールプレイ」で様々な立場を体験することで、これまでの支援内容や言葉かけを振り返る等、支援の改善を図っている。転倒リスクに対しては、生活パターンを把握して、リスクが高い時間帯や場所を全職員が共有し、支援内容を検討することで入居者の抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動で「身体拘束・虐待防止委員会」を立ち上げ委員を中心に啓発活動に努めたり、施設内・法人の勉強会へも参加を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の勉強会に参加し、学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、それぞれ十分に説明を行い、ご家族に納得・同意の上署名・捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意しています。入居者やご家族が無記名にて記入して頂けるようにしています。	家族の面会時には、積極的に声かけを行い、話しをするように心がけている。その中で散髪をして欲しいという要望を受け、全スタッフが2級ヘルパーの資格を持ち、月1回の訪問と臨時対応も可能な理容室を探して実施する等、家族の意見をサービスの向上に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に各フロアはケアや業務に対する意見や提案を上げるように指導しています。提案に対してはカンファを開催し、ケアや業務に反映しています。また、定期的に全体会議を開催し、管理者、職員の意見交換を行っています。	管理者やリーダーが常に職員と話しをして意見や提案を言いやすい環境を作っている。職員の提案やアイデアを受け、浴槽上に手すりを設置する、調理器具や椅子、ソファ、勤務時間の変更を検討する、地震想定避難訓練を実施する等、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。給与体系についても資格、能力により決定しており、勤務時間も労規を遵守するようシフト作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内では月1回の研修会を行っています。また、外部の研修も希望があれば参加できる機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会に入会しており、ブロック会や全体研修などに参加し、同業者の方々との交流と意見交換を行っています。また、同一法人内でも夏祭りや研修会等にて交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人様の要望や不安等をお聞きし、プランの作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っている事、不安、要望をお聞きし、プランの作成を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際に得た情報を元にサービス内容の検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持って接するようにしています。また、掃除や洗濯など一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や電話連絡で近況等についてお話をする時間を取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さま協力のもと、外出・外食を行うようにしています。	入居者の希望を受け、友人と絵手紙のやり取りをする、記念日に家族と自宅で食事をする、法事に出かける、家族や友人に電話をかける、施設の畑の芋掘りを体験した子ども達が気楽に遊びに来る等、地域との接点を持ちながら関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に気をつけひとり一人にあったレクリエーションを行いました、茶話会等では職員が間に入りながら支援していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には面会に行くようにしています。また、退居となった場合でも希望があれば相談や情報提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情、言葉、動きをしっかりと観察し、入居者様の気持ちになって考えその場に寄り添い言葉掛けを行っている。問題は職員間で話し合うようにしています。	家族からの気持ちや意向を確認しておく。意思疎通の難しい方は家族に直接連絡し連携をとったり、一対一で個別にかかわり気持ちに沿うようにして支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さまからその方の仕事、生活歴、趣味や癖などの情報を教えて頂き、生活情報シートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を記入し、一人ひとりの状態の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、ケアマネージャー、必要に応じて管理者、看護師も参加し、定期的にモニタリングを行っています。	カルテに日ごろの記録を記入し、職員が常に把握できるようにしている。日ごろの記録に基づきモニタリングが行われている。職員や家族からの情報も重ねて介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の気づきや実践状況の結果を記入し、今後のケアや情報の共有、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族さまの状況、要望に応じ、ドライブや買い物などに出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃活動や地域のお祭りに参加しています。今年度から認知症カフェへ参加し交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年度から訪問診察を受けており、日々のゆっくりとした生活の中で診察を受けています。急な体調変化時でもかかりつけ医に相談し、必要に応じて協力医療機関へ受診・治療を行って頂いています。	法人の病院が24時間連絡支援体制を行っている。入院・退院後の訪問看護師による支援も継続して行われている。他機関の受診も家族と協力して行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携のNsにバイタルサインやスキンチェック等の情報を伝え、必要に応じて相談や指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関という事もあり、入退院時には密に情報交換を行っています。また、病院は『施設生活を長く行ってもらおう』という方針でもあり、施設生活に影響のない範囲で早期に退院させてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明にてご家族さまには話をし、方針に対してご理解頂いています。日頃からご家族とはケアだけではなく体調や診察等に関しても連絡を取るようになっています。	常に主治医と連携して支援を行っている。法人内でも看取りのマニュアルがあり、職員連絡体制も整えている。病院・職員間の連携が強化されており介護職でも安心して支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加や年2回の避難訓練に合わせて訓練を行うようになっています。AEDの配置もされている為、定期的に講習も受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、避難訓練を行っています。日中想定では消防署立ち合いのもと訓練を行い、消火器取扱いや避難時の指導を頂きました。また、地域消防団の方へも訓練への参加をお願いします。	あらゆる災害に備えたマニュアルが作成されており、夜勤職員は非常時にマニュアルがすぐ取り出せる体制を整えている。非常食や水の備蓄も備えている。	あらゆる災害に備えたマニュアルはあるが実際に地震や水害に対しての災害計画書がない。今後は実際に訓練などを計画し対応できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による拘束・抑制がないように勉強会を行ったり誇りやプライバシーを損ねないように(排泄面では特に)言葉かけ誘導を行っています。	排せつ時や入浴時の介助は同性介助に配慮している。常に尊厳の気持ちを忘れず、ゆったりした気持ちでくつろげる環境を確保し、声掛けなど支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さまが思いや希望を言えるような接し方を心掛けています。職員主導にならないよう、自己決定できるような言葉掛けに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の生活の流れを把握し、その方にあった過ごし方を送って頂けるような支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容室の方がホームに来られ希望する入居者さまの散髪を行ってもらっています。また、毎日の洋服も本人に選んでいただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳など体調を確認しながら一緒に行っていただいています。	入所時にアレルギーの確認や食の嗜好を聞いている。家族や入所者と共にお寿司やステーキ肉を食べに行くなど外食を楽しんだり、すし屋にちらし寿司を依頼し施設に来てもらうなど工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が分かるように記録を残し、定期的に水分補給が出来るようお茶の時間等を作っています。またひとり一人に合わせて食事形態や量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。義歯については夕食後定期的にポリドント使用し消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さまの排泄パターンを把握し排泄の失敗を少なくするよう時間でのトイレ誘導を行っています。また、おむつの使用、当て方などを職員で話し合い使用量の最適化に努めています。	排せつ状況を個別でカルテに落とし込み情報をまとめグラフにし、誰でも排せつ状況が把握できる工夫をしている。紙パンツから布パンツに変更できた事例もあり排せつの自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や適度な運動を行うよう心掛け、排泄確認を行っています。便秘症の方は主治医へ報告・相談し下剤の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっていますが、必ずどこかのフロアが入浴を行っていますので希望があればいつでも入浴が出来るようにしています。	週2回の入浴にしているが、必要時はいつでも入浴できる体制を整えている。気分の進まない時は入居者の気持ちに寄り添いながら曜日を変更したり無理のない入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分に睡眠をとってもらえるよう、生活のリズムを整えたり、睡眠時の居室の温度や照明など、本人の希望に合わせるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さまの個人カルテに服用されている薬の説明書きをはさめており、日々、職員は説明書きに目を通し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の能力に応じて、フロア内の掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ等のお手伝いをして頂いたり、折り紙、塗り絵、畑の農作業、花壇の手入れ、カラオケなどを進めるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭への散歩やご家族さまに協力を得ながら外出して頂いています。また、季節ごとにピクニックなどを企画しています。	近くの認知症カフェに参加したり、職員と共に一対一で買い物に出かけている。施設内で花見や足湯に行くなど定期的な外出も行われている。日ごろから近隣を散策し、地域の方たちと声を掛け合うなど触れ合いも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方で要望があればご家族と相談し、お小使い程度の額を持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をかけて頂いています。また、お手紙が来た場合など、お返事を書く支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、テーブル、フロア内に四季折々の飾りや花を置き、居心地の良い空間作りに努めています。	室内の温度や湿度の調整をしながら快適に過ごせるよう環境を整えている。季節に応じた壁の装飾は入居者の方と共に楽しみながら作成したり、洗濯物を畳んだり家庭的な雰囲気でのんびり過ごせよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者さまの居室、フロア内、屋外とその時の気分ですら自由に過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さまに出来る限り本人さまの馴染みのある物を持って来て頂くようにしています。	個別の居室も温度や湿度に配慮している。各部屋に大きめの収納スペースがあり、きちんと整理ができるようになっている。トイレも各居室に整備され、清潔な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーとなっており、車イスの方でも自由に移動ができるようになっています。		